

第3章 紀州徳川家の時代



華岡青洲とその医術



時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
	昭和(戦後)・平成時代



華岡青洲画像(部分)(和歌山県立博物館蔵)

地は畑になっていました。近年、その跡地を発掘調査したところ、青洲の医術に対する考えや情熱を示す事実がいろいろと発見されました。

建物の配置

塾の敷地はおよそ2,600㎡もあり、敷地内には治療や授業に使われた「主屋」のほか、病室、薬を作る建物、倉庫などが建てられていました。江戸時代の医者の家は、一般の家と変わりませんでした。この塾は役割のはっきりしたいくつもの建物が集まって成り立っており、まるで今の病院のような姿でした。このため、能率のよい治療ができたと思われます。

衛生施設・排水設備

塾の建物には溝が必ずつけられており、雨水や台所などで使った水は地下の溝に集まって敷地の外に流れていくようになっています。江戸時代ではあまり見られないすぐれた設備です。湿気が多いと、ばい菌が増えやすく衛生的ではないので、ととのった排水施設はいかにも病院らしい工夫といえます。

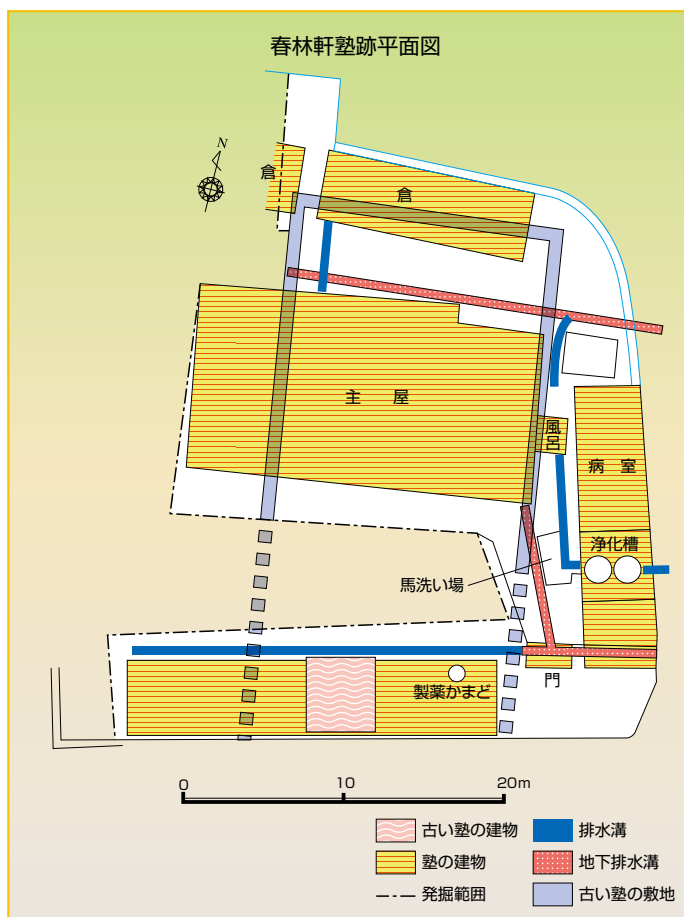


春林軒塾の発掘現場

浄化槽

塾には浄化槽が設けられていました。直径1.5mの桶を底の高さを違って二つ並べたもので、風呂の排水

* 1 汚れた水をきれいにするおけのこと。



の考えはたいへん合理的で進んでいたといえます。そして、地下排水溝や浄化槽のように、目に見えないところに相当のお金をかけて自分の考えを実現していることに、青洲の本当の偉大さがみられます。

最初の手術の舞台

もう1つ、発掘調査でわかった興味深いことがあります。出土した陶磁器などから、塾は19世紀の初めに大きくつくり替えられていたことがわかりました。青洲が最初に乳癌の手術に成功した部屋は、つくり替える前の塾で行われたようです。最初の塾は敷地が約600㎡で、後の塾に比べ小さいわけですが、それでも一般の民家の敷地に比べるとたいへん大きく、瓦屋根の建物であったこともわかりました。

「春林軒」は、1998（平成10）年3月に復元され、公開されています。



復元された春林軒

や馬を洗った水の汚れが沈殿していき、上澄みのきれいな水だけが敷地の外へ出ます。

以前は、生活の汚れた水を流すのが当たり前だったことに比べ、周りの田や畑にめいわくを与えないよう進んだ施設をつくった青洲は、すばらしい考え方をもっていたといえます。

トイレ

塾には「くみ取り式トイレ」がなかったようです。しかし、トイレがないわけにはいかないので、塾では「引き出し式」という「オマル」のようなトイレが使われていたものと考えられます。

塾にはいろいろな病原菌をもった患者が集まるので、患者の排泄物から別の人に病気がうつる可能性があります。そのため、トイレをオマル式にして、すぐに別の場所へ運んで処分したと考えられます。

このようにみてくると、青洲の医学について



薬に使用されたマンダラゲ